

9月号 活用いろいろ学習ゲーム

こどもが何も持ってこないときや、集中力が切れたとき、宿題が終わって少し時間があるとき、会場にあるものを利用して、遊びの要素があるちょっとした学習ゲームを取り入れてみたいかがでしょう。

1.言葉で遊ぼう

◆カタカナシー

「スマートフォン」や「トイレトペーパー」などのカタカナ言葉を、カタカナを一切使わないで説明し、相手に当ててもらおうゲームです。言い換えなどの表現力が鍛えられます。

◆見えるものを集める

会場内で目についたものを日本語でできるだけ書き出します。「消しゴム」「テーブル」「時計」など。一通り書き出したらそれを英語に直してもらいます。辞書を使用しても OK。

◆二文字とりしりとり

「**と**けい」→「けい**さ**つ」→「さつ**ま**い**も**」→「…」。

ひらめき力や語彙力を鍛えます。

2.数で遊ぼう

◆make10（メーク10）

トランプの1～9を用意。そのうち4枚取り出して出た数字を「+」「-」「×」「÷」を使って、ぴったり10を作ったら勝ちです。計算の工夫が自然に身につきます。

◆石とりゲーム

おはじきや、クリップなど15個用意します。2人で交互におはじきをとりませんが、1回につき「1個か2個か3個のどれか」とれます。パスはできません。最後にとって0個にした方が勝ちです。昔からある必勝法が存在する論理的なゲームです。

◆ぴったり100

2人で交互にトランプの山札から1枚ずつカードを引きます。めくったカードの数字をこれまでの合計に足していきます。合計がぴったり100になったら無条件で勝ち。ただし次のカードを引いたら100を超えそうな場合は、パスしてその時点の合計を自分の得点にできます。得点が多いほうが勝ち。絵札(J、Q、K)は「マイナス10」とします。暗算力を鍛えます。

ゲームで頭がほぐれたら、「この集中力のまま、〇〇をやってみようか」などと声をかけると、スムーズに学習に戻ることができるかもしれませんね。ほかにも「これ使えるよ」というゲームをご存知でしたらぜひお知らせください。